

花の魅力伝える

諸輪在住

近藤久美子さん (43歳)

6月下旬に、役場1階のロビーに県内産の切り花を使った縦180cm、横120cmもの大きさのフラワーアレンジメント作品が展示されました(13ページ参照)。その作品を制作したのが、町内のフラワーデザインスクール「ハナマルク」の近藤久美子さんです。

今回は、近藤さんに作品制作の花への想いなどのお話を伺いました。



東郷町らしい花絵をつくる

フラワーアレンジメントは、愛知県の県内花き事業者に対する支援策を活用し、県から届けられた県内産

のキクなどの切り花1000本を使って作製しました。作製には、近藤さんと、近藤さんの所属するSAKANASHIフローラルマスタースクール(名古屋市)の講師仲間7人が協力し、10時間以上かけて完成しました。



デザインは「役場に親しみを持ってもらえるよう、町のキャラクター『トッピー』のデザインを提案しました」と近藤さん。本物のトッピーと同じ色になるよう県から届いた花を配置し、足りない色は役場に咲いていた花を活用したり、カーネーションやバラなど県で生産されている花を選んで買い足したりしました。町制施行50周年を記念し、「50th」の花文字もデザインされ、東郷町らしい花絵となりました。「知り合いが作品の展示を知り、役場へ見に来てくれました」と近藤さんは微笑みます。作品は一週間ほど展示され、役場に華を添えました。

花のパワーを伝えたい

近藤さんは個人事業主のフラワーデザイナーとして様々な仕事を行っており、今回の事業以外にも、国や県から依頼を受けることもあります。また、近藤さんには小学生のお子さんが2人おり、小学校のPTAや児童館から講師の依頼を受けることもあるそうです。

様々な仕事を行う原動力は、「花が好き」であること。「花が1本でも部屋に飾ってあると癒されます。花のパワーを他の人にも伝えたい」と近藤さんは話します。また、「新型コロナウイルス感染拡大の影響で、仕事としてはなく花と向き合う時間ができ、改めて花の良さに気づきました」と続けます。

近藤さんは「花の美しさをあなたにも」を目標に、多くの人に花の楽しさを知ってもらいたいと活動します。

ママが活躍できる場を増やしたい

近藤さんは「ママが活躍できる場を増やすこと」もこれからやってみたいと話します。

出産後も子育てをしながら花の講

師を続けてきた近藤さん。その経験から、「ママのサポートがしたい」と思うようになります。

近藤さんは、ファミリーサポートの両方会員になったり、母子の自立のための学び場をつくる団体「10 and ーてんとー」のメンバーになったりするなど、ママをサポートする活動も行っています。

「手に職を持ちつつ、出産や子育てでそれを活かせていない人がたくさんいます。そんなママたちが活躍できる場を増やしたい」。

皆さんも今一度、花や子育てをするママたちに、目を向けてみませんか。

